

陳 情 文 書 表

(都市計画局)

受 理 番 号	4 4 1 9	受理年月日	令和7年9月2日
件 名	西京区桂学区への街区公園の設置		
要 旨	京都市は、新京都戦略～すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市京都」の実現～を策定された。策定に当たっては、市民生活第一の徹底、市民生活を守る政策を基本に据えるとされ、全ての人に居場所と出番があり、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できるウェルビーイングなまちへが強調されている。また、京都ならではの学びと子育て環境を通して「未来を担う子ども・若者を社会全体で共にはぐくむまち」の項で、公園の魅力向上や公共施設等の活用による遊び場や活動の場の創出など、子供・若者の居場所と、地域活動への参加等による出番の創出が挙げられ、居場所としての公園の大切さが述べられている。京都市民として誇りに思う。 京都市は公園整備面積目標を市民一人当たり10平方メートルとしている。2024年度末では5.18平方メートルの到達で目標の半分である。私たちが居住する西京区桂学区で見ると、二つの公園しかない。桂小学校より南にある巽公園（1,332平方メートル）、桂小学校より北にある平和台公園（325平方メートル）である。平和台公園は、ちびっこ広場と言われる非常に小さな公園である。二つの公園面積合計は1,657平方メートルである。隣の桂徳学区には六つの公園があり、合計面積は5,933平方メートルである。桂学区の3倍である。2025年8月1日人口（2020年国勢調査に基づく推測）では、桂学区8,006人、桂徳学区7,282人である。桂学区の方が人口が多いのに桂徳学区の3分の1しか公園が設置されていない。桂学区の公園が極めて少ないのは明らかである。桂小学校の児童が通う西京児童館には2階に遊戯室と屋上があるが、利用できる公園は近くにない。また、西京老人福祉センターに通う高齢者が利用しやすい公園は近くにない。地域の皆さんから、桂学区に広い公園を増やして欲しいという多くの声が、私たちの考える会に寄せられている。 子供は遊びの中で学び成長する。学校教育も家庭教育も大切であるが、公園は社会教育の場であり、子供が伸び伸び、生き生きと遊ぶ姿は、京都市が掲げる子育て世代が住みやすい京都そのものを表していると考えられる。子育て世代から、子供、高齢者が安心して利用できる公園のある地域づくりは、新京都戦略に述べられているウェルビーイングなまちづくりそのものであると考える。地域に居場所となる公園があるかどうかは、居住地を決めるうえで大切な要素であり、人口流入を促進させることにつながると思う。そういった意味から、桂学区に公園を造ることは、絶対に必要であると思う。 桂学区には、京都市の市有地、西京区役所保健福祉センター別館及び川西市営住宅跡地がある。川西市営住宅敷地内には公園（団地内広場）があった。子供たちの遊び声があふれ、桜の時期にはお花見を楽しむ多くの方々が来られ、地域の皆さんから長く利用され愛されてきた。新たに土地を探し購入する必要のないこの市有地に公園を造り、居場所づくりを実現してほしい。 新京都戦略では、公共資産・公共空間のフル活用が挙げられ、限られた資産で最大限の効果を発揮する必要があるものの、保有資産の活用が所管する局ごとの検討にとどまっており、京都市全体の視点での検討に至っていないと述べられている。現にある桂学区の公共資産・公共空間を子供から高齢者まで、地域住民みんなの居場所づくり、ウェルビーイングなまちづくりに活用し、西京区桂学区に新たな街区公園（現在ある巽公園面積と同様又はそれを超える街区公園）の設置を強く要望する。		
陳 情 者			
回付委員会	まちづくり委員会		